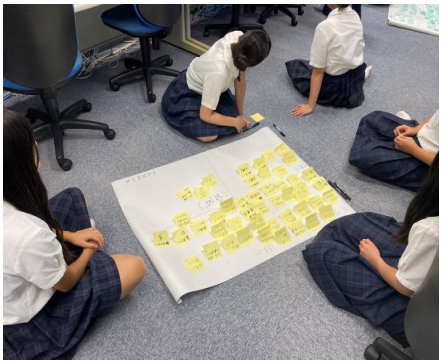
2025年度
高等学校向け出張授業一覧



せとうち観光専門職短期大学では、探究活動や進路研究の一助としていただくことを目的に、本学教員を派遣して観光分野に関する講義を行う「出張授業」を実施しております。

出張授業学びのキーワード(一部抜粋)

観光論/地域振興/文化/公共交通/観光素材/国際社会/経営学/観光地/お笑い
グループワーク/キャリアデザイン/SDGs/インバウンド/ホスピタリティ

詳細は中面をご覧ください。

■申込方法：せと短HP：https://web.seto.ac.jp/triplecture/

(大学概要＞出張授業のご案内)より▶

■申込期日：実施希望日の1ヵ月前まで

■費　　用：交通費(香川県内および近県)・謝礼は必要ございません

その他ご要望があればご相談ください。

お問い合わせ先

学校法人 穴吹学園
せとうち観光専門職短期大学
SETOUCHI PROFESSIONAL COLLEGE OF TOURISM

tel.(087)899-7011
〒761-0113 香川県高松市屋島西町2366-1
https://web.seto.ac.jp

出張授業一覧

No	教員	テーマ	内容	キーワード
1	**教授** 内田 忠賢 （学術教員）	観光資源化する都市祝祭よさこい/YOSAKOI系祭りの可能性	四国・高知でスタートし、北海道・札幌での模倣がきっかけに日本全国、世界各地で開催される「よさこい/YOSAKOI系祭り」その成り立ちや変貌、グローバルな展開を辿りながら、観光資源としての可能性を考えます。	・観光資源 ・都市祝祭 ・よさこい
2		レジャーランドの文化誌	鷲羽山ハイランド、レオマワールドほか、高松市周辺には昭和時代から続く巨大レジャーランドが残ります。それらの先駆けとなった、高度経済成長期の巨大レジャーランド、船橋ヘルスセンター、常磐ハワイアンセンター（現スパリゾート・ハワイアンズ）、奈良・横浜ドリームランド…ユニークでキッチュな巨大レジャーランドを時代背景から読み解き、将来のレジャーを考えます。	・レジャーランド ・文化誌
3		海外修学旅行の文化史	戦前、日本の当時の高等教育機関、旧制高校、旧制高等師範、旧制高等商業などでは、将来の日本を背負う人材育成を目論み、朝鮮半島、台湾、満州という当時の植民地への修学旅行を行いました。旅先で若者たちは何を見、何を考えたのか？　明治初年以来の修学旅行の系譜を辿りながら、若者たちの海外旅行の歴史を考えます。	・修学旅行 ・海外旅行 ・文化史
4	**教授** 石床 渉 （実務家教員）	うどん県の国際化 ～英語が話せなくてもできる国際化とは～	国際化が地域にもたらす活性効果を学ぶ。日本人の常識と海外旅行客の常識を比較し、ダイバーシティとは何かを考え、今後の国際化における重要なポイントを見出だす。香川県内の地元住民によるインバウンド客の受け入れ活動などの事例をもとに、国際化の本質とは何かを生徒と一緒に考える。	・国際化 ・インバウンド ・ダイバーシティ
5		「観る」観光から「感じる」観光へ～瀬戸内の宝を見つけ、発信しよう～	生徒自らが地域の素晴らしさに気づき、伝えることの大切さを学ぶ。瀬戸内の事例から、なぜ観光地として注目を集めるようになったのかその経緯を理解する。また、グループワークにより身近にあり観光素材を話し合い発表する。**【グループワーク】**	・瀬戸内 ・地域資源
6		地方発 一流ホテルマンへの道	ホテルで仕事をするうえで大切なホスピタリティとは何かを考え、必要な人材像を考察する。地方出身者が国内外のホテルで仕事に就き、お客様から感謝されることでやりがいを見出すまでの経緯を自身の経験をもとに説明する。また、ホテルの現場だけでなく、必要とされるスキルや現場で対応できる人材とはどういうものかを考察する。	・海外 ・宿泊業 ・ホスピタリティ
7		メディア作品から見た瀬戸内の魅力	瀬戸内を舞台にした映画、テレビ、雑誌などのメディア作品をとおし、観る側の心に響くもの、地元の人が気づかない地域の誇るべきものは何かを学ぶ。数々の瀬戸内で撮影された映画などをもとに、メディア制作側と地域住民が一体となったフィルムコミッション事業が地域にもたらす波及効果を検証する。	・瀬戸内 ・メディア ・コンテンツツーリズム
8		「海外から見た瀬戸内」と「瀬戸内から見た海外」	日本と海外の価値観や文化の違いについて考察する。「瀬戸内の観光」などを題材にグループワークにて簡単な SWOT分析をおこない身近な観光資源に気づく時間を持つ。仕事や旅行など様々な目的で来日するインバウンドへの対応の違いや、リスクを明確にし、課題を考察する。 **【グループワーク】**	・瀬戸内 ・文化論 ・SWOT分析
9	**教授** 大熊 伸二 （実務家教員）	地域資源の再評価	地方の課題である人口減少・少子高齢化は、地域の経済活動や社会生活の縮小衰退が懸念されている。その様な中で地方創成の切り札と期待されるのが「観光」である。メジャー観光地でなくとも、どんな地域にも存在する日常の地域資源をビジネスとしての観光素材とする考え方や手法を学びます。	・地域創成 ・地域資源 ・観光素材
10		交通産業と社会	鉄道・航空・バスなど公共交通は、社会インフラ・生活サービスなどと言われます。交通は社会や生活とどの様に係り影響するのか、その変遷を紐解き、大都市集中と地方格差の課題の中で問われる公共性、事業性、その間にあるとされ着目され始めた「共助」について考えます。	・公共交通 ・交通政策 ・交通と経済

No	教員	テーマ	内容	キーワード
11	**教授** 吉田 雄介 （学術教員）	衣食住の地理 －イランと日本の比較から－	和辻哲郎も『風土』で述べるように、西アジア地域は、東アジアと異なり極めて過酷な自然環境の大地です。この地域の人々の伝統的な生活や文化を自然環境（地域資源）との関係から見ていきたいと思います。「所変われば品変わる」と申しますが、自然環境の違いが衣食住にどのような違いをもたらしたのか、その点を実際に理解してもらえればと思います。	・地理学 ・文化 ・地域資源
12		ペルシア絨毯からみるグローバル・ナショナル・ローカルの結びつき	ペルシア絨毯は、イランの地域資源が生み出したこの地域に独特の産品です。そして、いまだに人間が器用な指先で色糸を一本一本結ぶことで織り上げられます。ただし、その生産が飛躍的に拡大したのは、19世紀の末にヨーロッパ向けの輸出生産が拡大したからです。そこで、このペルシア絨毯から、グローバル・ナショナル・ローカルの関係を読み解いてみたいと思います。	・イラン ・地域資源 ・地域社会
13		京阪神の地誌	京阪神、つまり京都・大阪・神戸地域の全体像を、都市や人口など地理的な側面から把握したいと思います。図表を利用してわかりやすく京阪神地域を考えていきたいと思います。	・地理学 ・地誌
14	**教授** 田保 顕 （学術教員）	漫才はどうやって生まれたか？	誰でも一度はテレビで漫才を見たことがあるでしょう。二人組が登場し、一方がとぼけたことを言い、他方がつっこむという「ボケとツッコミ」という役割分担もすっかりおなじみのものになってしまいました。しかし、これは昭和初期には「最新の芸能」だったのです。どんなふうに漫才は生まれたかを見ながら「お笑い」と社会についてお話しします。	・芸能文化 ・お笑い ・漫才
15		ゲストハウスってどんなところ？	ここ数年、ゲストハウスという宿泊施設が多くみられるようになりました。ホテルとは異なり見知らぬもの同士で1つの部屋に宿泊したり、トイレやシャワーを共同利用したりするのが特徴です。安価なので外国人の若者もよく利用します。ゲストたちはどんなふうに過ごし、ホストはどう切り盛りしているのでしょう？	・経営学 ・宿泊業 ・ゲストハウス
16	**教授** 髙橋 紀穂 （学術教員）	日常世界とコミュニケーションと観光と	旅行や観光とは非日常の体験です。それらは日常の反対側にあるものです。だから、楽しいのだ、と言えます。それに比べて、日常とは、退屈な世界だといえるのかもしれません。しかし、私たちは日常がどのように出来上がっているのかをよく知りません。生きているという実感を与えてくれているのは日常です。そこに安定性があるからこそ私たちは平穏に生きることができるのです。しかし、それは不動の安定性を持ちません。ダイナミックで波乱に富んだものでもあります。ここでは、その日常をコミュニケーションという視点からとらえ、観光の持つ魅力を解き明かします。観光社会学の観点から、「日常」の新たな側面を学べます。	・日常と観光 ・観光社会学 ・コミュニケーション
17	**准教授** 島田　裕之 （実務家教員）	ホテルのこれまでと今そして将来展望 ～富裕層向け外資系ホテルの客室は果たして10万円以上で売れるのか！	「宿泊施設の目的地化」最近、こう言われるように、個性的なホテルが増えてきています。ペットホテル、ライブラリーホテル、カルチャー教室やライブハウス併設のホテル、住宅展示場兼用の宿泊施設等々。 また、都市部のみならず、地方にも続々開業している高級外資系ホテルのトレンドを解説したうえで、マンダリンオリエンタルホテル高松の成否を予想します。	・ホテル ・マーケティング ・ブランディング
18		ホテルマンから教わる人生で大切なたった一つの事	「人は見た目が9割」、「人は第一印象が大切」、生まれ持っての顔やスタイルは変えられません。しかし、高校生の時からあることを意識するだけで人生は劇的に変えられます。メラビアンの法則を改めて学び、 **【コミュニケーションの実習】**をしていきます。 ※上記ホテルの将来展望も併せて内容をコンパクトにして授業することも可能です。	・コミュニケーション ・マナー
19	**講師** 濵島 朋子 （実務家教員）	キャリアデザインの冒険	キャリアデザインって何？世の中にどんな仕事があるの？社会への興味や関心を見つける楽しい方法を学び、自分自身を理解し、将来の可能性を探求します。グループディスカッションや興味探索活動を通じて、自己発見の旅を楽しみましょう。**【グループワーク】**	・キャリア ・自己分析 ・コミュニケーション
20		コミュニケーションの落とし穴と秘訣	効果的なコミュニケーションの重要性を理解し、リーダーシップやチームワークのスキルを身に付けます。実践的な演習やビジネスシナリオの解決策を考えるプロセスを通じて、日ごろの会話に磨きをかけましょう。**【グループワーク】**	・リーダーシップ ・チームワーク

No	教員	テーマ	内容	キーワード
21	**助教** 川田 里絵 （実務家教員）	観光と水族館	みなさんは水族館に行ったことがありますか？いつ、誰と、何のために行きましたか？ 社会動向とともに、水族館のあり方や役割は変わってきました。これまでの日本の水族館の歴史を振り返り、観光と水族館の関係について考えてみましょう。**【グループワーク】**	・水族館 ・観光 ・博物館 ・観光文化施設
22	**助教** 松尾 有起 （学術教員）	なぜ屋島は観光地になったのか	源平合戦の「屋島の戦い」で知られる屋島は、どのようにして観光地になりえたのでしょうか。特定の地域に人々が足を運ぶようになるまでには、いくつもの理由があります。鎌倉時代から現在まで、屋島が人々を惹きつけてきた理由を、文学、芸能、土産物などを通して、文化史的な観点から探っていきます。	・屋島 ・観光地 ・文化論
23		子守唄の昔と今を知ろう	かつて子守唄は、子守りを労働とする少女たちによってうたわれていました。今日において少女たちが口ずさむ子守唄を耳にする機会はほぼありません。とはいえ、こうした子守唄は地域振興の資源として日本各地で活用され、親しまれてきました。映画、ドラマ、アニメの中に子守唄が織り込まれることも多く、最近では「鬼滅の刃 遊郭編」に登場した子守唄が話題を呼びました。この授業では、日本の子守唄がどのように変化してきたのかをたどることで、人々が地域の文化とどう関わってきたのかを考えます。	・子守唄 ・地域振興 ・地域・文化
24	**助教** 有國 明弘 （学術教員）	街中の「サブカルチャー」から社会を知る	街中でよく見かける、スケートボードやダンスをする人々、また壁やシャッターなどへの落書きなどを見たことはありませんか？一見「路上の迷惑行為」として扱われることが多いこれらは、今では五輪競技になったり観光資源になったりと、異質な文化を社会が受け入れ始めている証拠ではないでしょうか？では社会はそれらに一体何を求めているのでしょうか？街中で見かけるサブカルチャーの社会的意味について探っていきましょう。	・サブカルチャー ・都市文化 ・ストリートアート
25		ストリートダンスから社会を考える	みなさんの中には習い事や部活動、または体育の授業として「ダンス」に取り組んでいる（または経験がある）方もいるのではないでしょうか？近年メディアやエンタメでもよく見かけ、みなさんの身近になっている「ヒップホップダンス」や「ブレイクダンス」は、日本社会ではかつて「不良の文化」とされていました。社会から距離を置かれやすい「不良の文化」が、なぜみなさんの身近なものへと変容したのでしょうか？ダンスを通して、そのような社会の不思議さに迫ってみましょう。	・ストリートダンス ・文化と社会